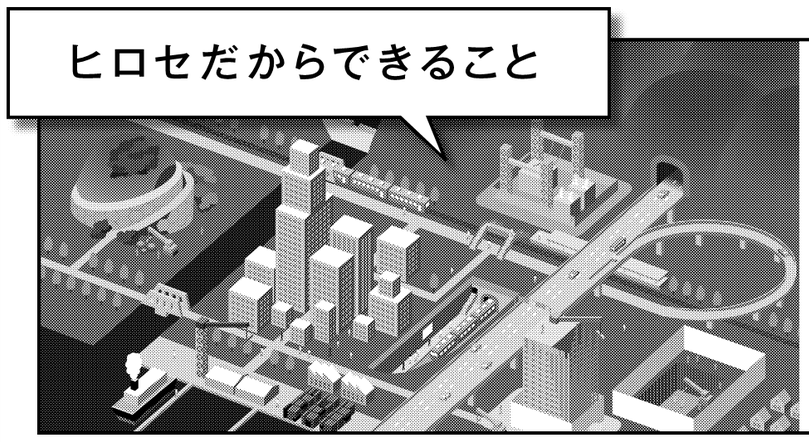
ヒロセだからできること



街で、山で、川で、海で、
社会基盤を整備するあらゆる現場で求められる
より安全な作業環境、より効率的な施工方法、
より環境に配慮した技術。そして、人と自然が
共に生きる快適な社会を創ること。
そんな課題に応えるために
ヒロセだからできることがあります。

hirose株式会社
www.hirose-net.com

建設産業

経年変化と味わい

木造建築ではできた瞬間が一番美しい姿とは限らず、古びた色に変化して味わいを増すこともある。これは、伝統木造建築の建物で実証されている。つまり、自然材料である木材は、その変化を楽しむという価値観が必要なのである。

また、経年変化を良い方向に向かわせるのはメンテナンスであるが、これもメンテナンスフリーを目指して開発される工業材料とは異なる価値観をもたなければならない。メンテナンスを行うということは建物に対する愛着にもつながり、ソフト面からも建物を成長させることにつながる。

一方、森林資源が豊富な現在であれば、メンテナンスの中に消耗品的に木材を使用することもひとつの手である。ウッドデッキや外壁などでは、これまで腐りにくい特殊な南洋材が用いられることが多かったが、腐らないわけではなく腐りにくいにすぎないのである。

いったん腐ってしまえば、再び特殊材を入手しなければならなくなってしまう。そうであれば、最初から地元で容易に入手できる木材を使って地元の技術で交換可能な仕組みにしておけば、腐りやすい材でも腐ったら交換すればよく、これもメンテナンスのひとつである。

写真３　㊨用途の限られていた間伐材（75㎜角材）を活用する仮設工事事務所「ecoサイトハウス」写真：浅川敏
㊦長さの異なる木材をブロック状に積み上げ空間を形成した「くうかん実験棟」写真：繁田諭

さまざまな木を使う

森林からは太い木、細い木、さまざまな木材が産出される。資源の有効活用のためには、使いやすい木だけでなく、さまざまな木材を使っていかなければならない。

戸建住宅の柱にも使えない細い木材や短い木材でも、接合方法を工夫すれば現場小屋などの小規模な建築に用いることが可能である。短い材であれば、ブロック状にして積み上げればよい。これまで利用価値がないと山から搬出されなかった木材も設計者が工夫をすれば、新たな活用方法が見つかるかもしれない（**写真3**）。ここでは、林業関係者と建築関係者の情報交換と木材に対する価値観の見直しが必要である。

新しい木造建築の街並み

都市の中に木造建築が建設されると新しい街並みが生まれる。木造建築のまちなみというと宿場町（**写真4**）や京町家などを想像してしまうが、これは100年以上前の木造建築のまちなみである。建築は、その時代の生活スタイル、社会システムに応じて変化するものであり、木造建築といっても昔の価値観を再現する必要はない。現代の価値観で建物が持続する将来を見据えていかなければならない。

例えば大阪木材仲買会館には、敷地内にある桜の木をシンボルとしながら、低層ではあるが都市の新しい街並みの姿を感じさせてくれる（**写真5**）。高架下にオフィス機能を挿入したJR九州大分支社（12年／大分市）も鉄筋コンクリート造りの架構ながら都市の中での木材の使い方の好例である（**写真6**）。単体の木造建築だけでなく、都市の中に現代の価値観に基づいた都市木造による魅力的な街並みの登場を期待したい。

写真５　大阪木材仲買会館では敷地内の桜の木をシンボルに建設

写真６　鉄道高架下を木質空間にしたオフィス（ＪＲ九州大分支社）

写真４　宿場町のまちなみ（長野県の奈良井宿）

人がつくる。人でつくる。

ここで過ごす人々の姿を、
ここからはじまるしあわせをイメージしながら。

アイデアでつくろう。情熱でつくろう。
さまざまな人の想いをつないでつくろう。
アタマとココロを使って
人間にしかできないものづくりを目指して。

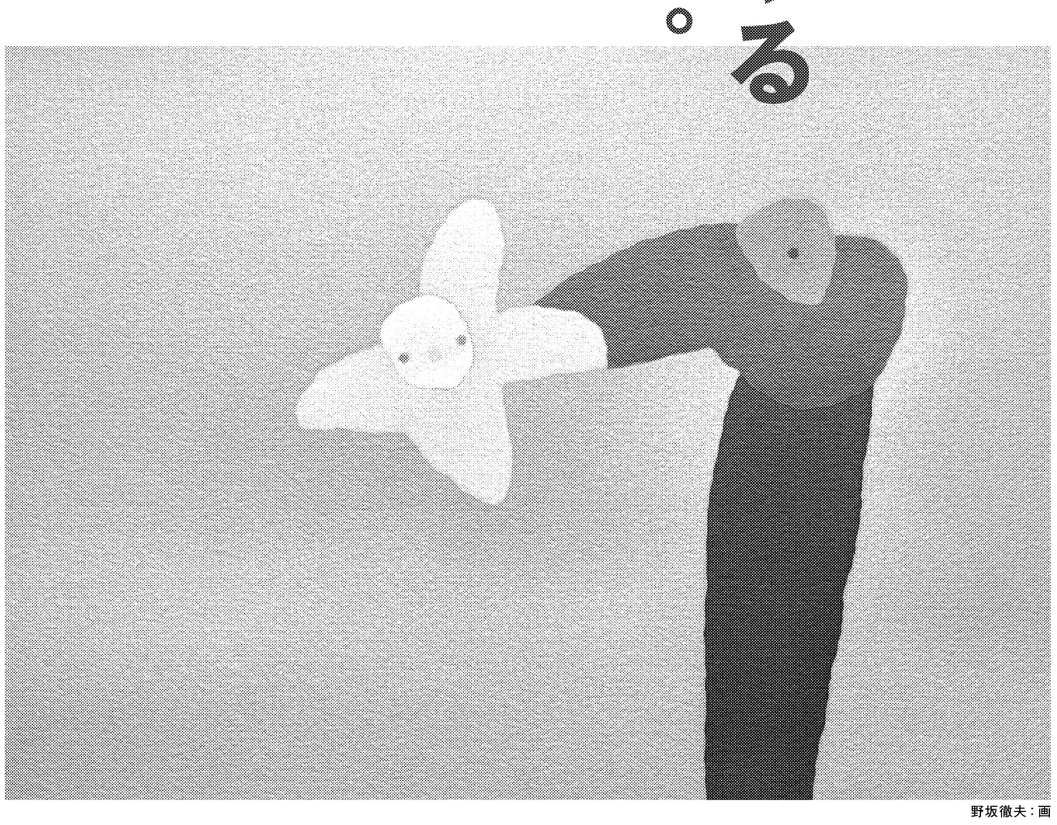
人がつくる。人でつくる。
それが戸田建設のやりかたです。

戸田建設

www.toda.co.jp　本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 ☎03-3535-1354　ISO 9001・14001認証取得

TAKENAKA

守る、
創る、
思いやる
ビルへ。



野坂徹夫：画

災害から人々の暮らしを守る。
エネルギーを創り、分けあう。
都市を、そして地球を思いやる。
これからのビルはこうじゃないとね。

想いをかたちに
竹中工務店